

経営改善支援の取組み状況(平成17年4月～平成19年3月の活動)

士別信用金庫

当金庫は地域経済が低迷を強めている現在、業績低迷に苦慮している地域企業の皆様に対して親身になって相談を受け、業績・財務内容について一歩踏み込んだ分析を行い、改善策、経営改善計画へのアドバイスを行うなど、資金面だけでなく、より生きた支援ができるよう取組んでおります。

平成17年8月、リレーションシップバンキング・アクションプログラムの後継として、金融改革プログラムに基づく地域密着型金融推進計画を策定し、事業再生・中小企業金融支援に向けた主な取組みとして、融資審査態勢の強化、経営改善支援先のランクアップを目指し、以下の施策等について鋭意取組んで参りました。また、課題解決型金融推進を最重要課題と位置付けし、取引先が抱える課題等に対して、より深度ある相談・情報提供などができるよう、態勢の強化、人材の育成に努めて参りました。

融資審査態勢の強化に向けた主な取組み状況

主な施策	主な取組み状況
企業の定性情報を重視した各種モニタリング手法、キャッシュフローを重視したローンレビュー手法の定着化・有効活用	融資担当役員会議、庫内セミナー、臨店指導等の実施により、企業実態把握のための各種モニタリング手法の周知及びスキルアップを図るとともに、日常指導を通じて活用の定着化に取組みしている。また、各種手法について、順次見直しを図り効率化に取組みしている。大口融資先モニタリングとして、四半期毎に企業動向・財務内容・収益力等実態把握に取組みしている。
中小企業支援・実態把握強化へ向けての人材育成、スキル向上	企業再生支援、目利き能力向上等含めた研修計画に基づき各種外部研修へ積極的に職員を派遣。東信協「情報玉手箱」テキストの配布とレポート提出を義務付け、企業実態把握、目利き能力、企業支援ノウハウ等について継続的に自己研鑽を推進している。毎年度、2～3月の土曜日を活用し、若手職員を対象とした自主参加セミナーを開催、ローンレビュー・企業実態把握など融資判断・支援スキルの向上、相談・情報提供力の向上に取組みした。 ・17年度「融資能力・提案能力強化セミナー」 4回開催 34名参加 ・18年度「課題解決型金融スキルアップセミナー」 4回開催 35名参加 共同オンライン財務分析システムの活用により、経営相談・財務アドバイス機能を強化した。当初は51企業とし、順次拡大と有効活用に取組みしていく。

経営改善支援先のランクアップへ向けての主な取組み状況(要注意先債権等の健全債権化等の強化に関する実績)

主な施策	主な取組み状況
経営改善支援に関する体制整備状況	経営改善支援先の選定基準、支援体制、手法等をまとめたマニュアルに基づき、対象企業を選定。17～18年度においては50先以上を目標として改善支援に取組みしていく。支援体制は「金融改革プログラム推進委員会」及び各営業店の管理者から構成する「支援チーム」により支援策等を検討のうえ経営改善支援に取組む。定期的に推進委員会と支援チームにより進捗ヒアリングを開催、企業の実態把握を行いながら財務指導中心とした助言・支援に取組む。
経営改善支援の取組み状況	17・18年度の経営改善支援先は、地域経済情勢を勘案し、建設関連業種を中心に51先を選定、19年3月末においては、地域経済の低迷からランクアップは2先の実績となった。さらに地域経済情勢は厳しさを増しており、今後についてもランクダウン防止に力を入れた助言・支援に取組みしていく。

< 経営改善支援の取組み実績 >

(H17年4～H19年3月)

	期初債務者数	うち経営改善支援取組み先	うち期末に債務者区分が		
			上昇した先	変化しなかった先	
正 常 先	383	20		12	
要 注 意 先	うちその他注意先	207	38	1	25
				うち要管理先	19
破 綻 懸 念 先	14	1	0	1	
実 質 破 綻 先	16	0	0	0	
破 綻 先	24	0	0	0	
合 計	663	64	2	38	

今後に向けての課題

- ・中小企業金融再生に向けた取組みについて、企業支援スキル、目利き能力や企業実態把握能力について一層の充実強化が課題と認識しており、今後についても各種モニタリング手法の定着化・有効活用を目指し、態勢強化を図って参ります。
- ・当地域における経済環境はさらに低迷を強めており、今後も経営改善支援先等に対する一層の支援強化が必要と考え、「支援チーム」を中心とした実効性ある支援対応に鋭意努めて参ります。
- ・支援スキル向上として、自己研鑽の推進、自主セミナーの開催など、人材の育成・強化に今後も取組みして参ります。